TGR TEAM ZENT CERUMO

2021 AUTOBACS SUPER GT Report

FUJIMAKI GROUP FUJI GT 300km RACE

第8戦　富士スピードウェイ

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆11 月 27 日（日）　RACE

決勝結果　5 位

一夜明け、迎えた 11 月 28 日（日）の決勝日。澄み渡る青空のもと、朝から非常に多くのファンがスタンドを埋め、新型コロナウイルス禍以前を思わせるような賑わいをみせるなか、午前 11 時 40 分からのウォームアップを経て、午後 0 時の決勝レースのフォーメーションラップの時を迎えた。前日の予選と比べても時間が早く、また風もそこまで強くなく、気温 13 度、路面温度 22 度というなかで迎えた。

予選 7 番手からスタートを切る ZENT CERUMO GR Supra は、今回も立川祐路が務めた。オープニングラップで立川は、冷え込みのなかでタイヤをウォームアップさせ臨むも、さらにウォームアップ性能が良かったライバルたちが立川に襲いかかる。混戦のなか 12 番手にポジションを落としてしまうが、GT500 は序盤から超僅差の争い。最終戦ということもあってか序盤からバトルも激しい。

そんななか、3 周目のパナソニックコーナーで、立川の眼前を走っていた#17 NSX-GT が#12 GT-R とヒット。アウト側にいた#19 GR Supra と接触してしまうアクシデントが起きる。この直後にいた立川は、スピン状態となった#17 NSX-GT と#19 GR Supra の間を必死のコントロ

ールで抜けることに成功する。ただ、#19 GR Supra がほんのわずかに ZENT CERUMO GR Supra のリヤウイングにヒットした感触があった。立川は、リヤウイングが無事であることを確認し、９番手にポジションを上げる。ただアクシデントで減速した間に、８番手とはやや差が開いてしまった。

しかし６周目、GT300 クラスで発生したアクシデントをきっかけに、８周目にセーフティカーが導入された。これで前とのギャップを縮めることに成功した立川は、13 周目のリスタートからプッシュを続けていく。８周目、#23 GT-R との差を縮めると、16 周目にこれをオーバーテイク、さらに前を行く#39 GR Supra とのギャップを縮め、20 周目にパス。７番手に浮上した。

この頃になると、GT500 クラスでも少しずつピットインの動きが出はじめた。TGR TEAM ZENT CERUMO はピットインのタイミングをうかがい、25 周を終えて立川を呼び戻した。ピット作業も素早く、交代した石浦宏明は#1 NSX-GT の後方の６番手につけていく。

スティント序盤からプッシュを続けた石浦だったが、冷え込みのなかで無闇にペースを上げると、タイヤがダメージを受けてしまう予兆を感じ取り、しばらくは#1 NSX-GT の背後でレースを進めていった。そんななか、30 周目には#1 NSX-GT とともに#3 GT-R をかわしひとつポジションを上げる。

タイヤのライフを守りながら#1 NSX-GT を追っていた石浦だったが、51 周目、石浦の眼前でアクシデントが起きる。GT300 クラスの車両が#1 NSX-GT にヒットし、両車ともダメージを受けてしまったのだ。これで石浦は４番手に浮上する。そして、この時点で石浦には別のミッションが生まれた。ランキング首位だった#1 NSX-GT が順位を落としたことで、TOYOTA GAZOO Racing の１台

として、首位を走る#36 GR Supra のチャンピオンの可能性をたぐり寄せるためにも、後方から好ペースで飛ばしていたチャンピオン候補の#8 NSX-GT に順位を上げさせないという仕事だ。

石浦はペースを上げながらレース終盤を迎えていたが、その頃、ピット作業時間を削るために給油量をアグレッシブに攻めたためか、燃料残量の警告アラートが出はじめた。燃費を気にしながら、かつ#8 NSX-GT に攻めさせないレースをしなければならない。石浦は後方から迫ったペースに優る#39 GR Supra にこそ先行を許したものの、その後はしっかりとペースを保ち、66 周を走りきった。ZENT CERUMO GR Supra の今季最終戦は、５位という結果となった。

新たな体制で臨んだ 2021 年、TGR TEAM ZENT CERUMO は結果的に未勝利のままシーズンを終えることになった。ただ、これを 2022 年の飛躍に繋げるためにも、これからのオフシーズンが重要となる。来季に向け、TGR TEAM ZENT CERUMO は雌伏のときを迎える。

ドライバー／立川祐路

「決勝レースに向け硬めのタイヤを選んでいたことから、ウォームアップが難しいのは感じていましたが、スタート直後からライバルのウォームアップが良く、集団に飲まれる展開となってしまいました。最終コーナーでアクシデントがありましたが、本当にギリギリで避けることができました。そこからはフィーリングも良く、コンスタントに走れる状況だったので、セーフティカーランで差を詰めることもでき、順調にポジションを上げることができました。結果的には５位にはなりましたが、やはり予選でもう少し前に行きたかったですし、来季に向けてはそのあたりも見直していきたいと思います。今シーズンは１勝を挙げることができなかったので、来シーズンこそ勝てるように頑張っていきたいと思います」

TGR TEAM ZENT CERUMO

ドライバー／石浦宏明

「ピットワークも速く、前に#1 NSX-GT がいた状態で後半のスティントが始まりましたが、本来もっとペースを上げられるフィーリングがありました。ただ、少しプッシュしたときに『タイヤを守った方がいいかな』という感触があったので、後方から来るライバルを退けながら、タイヤを守り、スティント後半でプッシュできるように備えました。そんななか、自分の前で#1 NSX-GT がクラッシュしたので、その後は自分のペースでプッシュできる状況になりました。ただ終盤、燃料が厳しくなる状況にもなりはじめ、タイトル争いの展開もあったので、状況を見極めつつのレースになりました。ピックアップを拾った際に１台にかわされ最終的に５位となりましたが、ペースに課題はありつつも、TOYOTA GAZOO Racing 勢のチャンピオンに貢献できたのはひとつ良かったことだと思いますし、GR Supra 勢のなかでも前にいけるよう煮詰めていかなければと感じた最終戦でした。今季はなかなか戦えるペースで走れていませんでしたが、シーズン中盤から戦える手ごたえを得て、自分たちでも課題を克服してきました。それが形になってきましたし、この改善を繰り返し、さらに見直していければと思っています」

村田淳一監督

「まずは１年間、サポートをいただいたスポンサーの皆さま、TOYOTA GAZOO Racing、トヨタカスタマイジング＆ディベロップメントと、関係各位の皆さまに感謝申し上げます。また TGR 陣営として、#36 GR Supra がチャンピオンを獲れ、我々も陣営の一角として貢献できたと思いますし、来季のクルマづくりへの期待もこめ、おめでとうございますとお伝えしたいです。我々のレースとしては、着実に進歩を遂げてきましたし、今回の決勝も戦える手ごたえがありました。スタートでは混乱に巻き込まれたところもありましたが、ふたりのドライバーが順位を上げてきてくれましたし、良いレースができたと思います。トラックポジションを攻めた結果、燃料の懸念がありましたが、うまく石浦選手がコントロールしながら走ってくれたと思います。課題もありますが、狙いは良かったと思いますので、その精度を高め、今後に繋げていきたいと思います。１年間ご声援ありがとうございました」

TGR TEAM ZENT CERUMO

TGR TEAM ZENT CERUMO

決勝正式結果

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	36	au TOM'S GR Supra	66	1'28.551
2	37	KeePer TOM'S GR Supra	66	1'28.754
3	14	ENEOS X PRIME GR Supra	66	1'28.493
4	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	66	1'29.267
5	38	ZENT CERUMO GR Supra	66	1'29.167
6	8	ARTA NSX-GT	66	1'29.239
7	23	MOTUL AUTECH GT-R	66	1'29.737
8	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	66	1'28.940
9	12	CALSONIC IMPUL GT-R	66	1'30.064
10	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	66	1'29.836
11	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	65	1'30.239
12	64	Modulo NSX-GT	65	1'30.544
13	19	WedsSport ADVAN GR Supra	63	1'29.851
14	1	STANLEY NSX-GT	59	1'28.814
	17	Astemo NSX-GT	4	1'30.531

TGR TEAM ZENT CERUMO

2021 年シリーズランキング
（ドライバーランキング）

Pos.	No.	Driver	Car	Point
1	36	関口雄飛/坪井翔	au TOM'S GR Supra	64
2	8	野尻智紀/福住仁嶺	ARTA NSX-GT	60
3	1	山本尚貴	STANLEY NSX-GT	60
4	1	牧野任祐	STANLEY NSX-GT	57
5	14	大嶋和也/山下健太	ENEOS X PRIME GR Supra	52
6	17	塚越広大/ﾍﾞﾙﾄﾗﾝ･ﾊﾞｹﾞｯﾄ	Astemo NSX-GT	52
7	37	平川亮	KeePer TOM'S GR Supra	46
8	12	平峰一貴/松下信治	ｶﾙｿﾆｯｸ IMPUL GT-R	45
9	23	松田次生/ﾛﾆｰ･ｸｲﾝﾀﾚｯﾘ	MOTUL AUTECH GT-R	41
10	3	平手晃平/千代勝正	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	39
11	19	国本雄資/宮田莉朋	WedsSport ADVAN GR Supra	36
12	38	立川祐路/石浦宏明	ZENT CERUMO GR Supra	34
13	39	ﾍｲｷ･ｺﾊﾞﾗｲﾈﾝ/中山雄一	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	34
14	37	阪口晴南	KeePer TOM'S GR Supra	28
15	24	高星明誠/佐々木大樹	ﾘｱﾗｲｽﾞｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ ADVAN GT-R	20
16	16	笹原右京/大湯都史樹	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	20
17	37	ｻｯｼｬ･ﾌｪﾈｽﾄﾗｽﾞ	KeePer TOM'S GR Supra	18
18	64	伊沢拓也/大津弘樹	Modulo NSX-GT	5
19	1	武藤英紀	STANLEY NSX-GT	3